令和７年度 堺市障害者自立支援協議会
第４回 強度行動障害支援部会

開催日時：令和８年３月５日（木）10:00～11:10
場　　所：堺市役所本館地下１階 大会議室 [東側]

次 第

10:00～10:40

1　強度行動障害支援体制整備事業

（1）令和７年度下半期の経過報告　資料 1-1　資料 1-2

（2）市域向け実践報告会の実施報告　資料２

10:40～10:45

2　次年度のスケジュールについて　資料３

10:45～11:05

3　体制整備に向けて　資料４

11:05～11:10

4　その他

令和８年度第１回強度行動障害支援部会 開催日程
令和　　年　月　　日（　）　　：　　～

強度行動障害支援体制整備事業　参画法人一覧

資料1-1

参画法人	個人参加法人	コアメンバーについて	事業受託法人 （社会福祉法人北摂杉の子会） 担当者
社会福祉法人コスモス	社会福祉法人ライフサポート協会	法人参加：5名 （事業種別：生活介護、共同生活援助） 個人参加：2名 （事業種別：生活介護、居宅介護）	伊名岡　宏 辻本　紗弥
	社会福祉法人自立支援協会		
社会福祉法人こころの窓	社会福祉法人嘉誠会	法人参加：5名 （事業種別：生活介護、共同生活援助） 個人参加：1名 （事業種別：共同生活援助・短期入所）	伊名岡　宏 辻本　紗弥
社会福祉法人障友会	株式会社Donuts	法人参加：5名 （事業種別：生活介護） 個人参加：1名 （事業種別：共同生活援助）	小林　哲理

※事業受託法人（社会福祉法人北摂杉の子会）事務局：平野　貴久

資料1-2

堺市「強度行動障害支援体制整備事業」

令和7年度
第4回自立支援協議会
強度行動障害支援部会

令和8年3月5日

令和7年度スケジュール

令和7年度スケジュール　堺市強度行動障害支援体制整備事業

	回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
社会福祉法人 コスモス	コンサル9回	4/23 13:00-15:00 @北部作業所 （1回分）	5/27（火） AM：評価 PM：事例検討 （2回分）	コロナ流行 のため延期 ↓ 10/2、11/10	7/29（火） 13:00-15:00 事例検討 （1回分）	8/28（木） 13:00-15:00 事例検討 （1回分）		10/2 10-12 北部 （1回分） 10/30（木） 10-12、13-15 AM：事例検討 PM：OJT（2回分）	11/10（月） 10-12 北部にて しののめ事例検討 （1回分）						確定
	実地研修 10日/人 （延べ人数）	候補 4/14 表出コンサル1名 4/25 ASDコンサル1名 計2名	5/24,25 とれとれ研修 場所：もとまち 2日間2名参加 （延べ4人参加）				9/8 表出コンサル 2名 9/19 ASDコンサル 2名 その他：現場実習 計4名								確定
	実践報告1回 （法人向け）									12/11（木） 18-20 実践報告会 1回分					確定
	実践報告1回 （地域向け）											2/14（土） 13:45-16:30 西文化会館 1回分			確定
社会福祉法人 障友会	コンサル9回		5/30（金） 16-19 （1回分）	6/20（金） 16-19 （1回分）	7/18（金） 16-19 （1回分）	8/29（金） 16-19 （1回分）		10/17（金） 16-19 堺みなみ （1回分）	11/21（金） 16-19 （1回分）	12/19（金） 14:30-16:30 （1回分）	1/16（金） 16-19 （1回分）	2/20（金） 16-19 （1回分）			確定
	実地研修 10日/人 （延べ人数）						9/19 レジデンスなさはら 2名参加	10/25、26 とれとれ研修 場所：もとまち 2日間2名参加 （計4人参加）	11/10 なさはら　2名 11/28 なさはら　1名 （計3名参加）	12/24 とれとれ研修 場所：もとまち 1名参加					確定
	実践報告1回 （法人向け）									12/19（金） 17:30-18:30 実践報告会 1回分					確定
	実践報告1回 （地域向け）											2/14（土） 13:45-16:30 西文化会館 1回分			確定
社会福祉法人 こころの窓	コンサル9回		5/21（水） 事例検討とOJT （1回分）	6/16（月） 事例検討と シュミレーション （1回分）		8/18（月） 事例検討 （1回分）	9/29（月） AM　事例検討 PM　OJT （2回分）		11/17（月） AM　事例検討 PM　OJT （2回分）	12/19（金） 10:15-12:15 （1回分）		2/16（月） 10:15-12:15 （1回分）			確定
	実地研修 10日/人 （延べ人数）				7/22 事例検討 （松嶋、野津） 7/14 表出コンサル （松嶋、森本） 7/25 ASDコンサル （松嶋、家次） （延べべ6名参加）			10/25,26　4人 とれとれ研修 場所：もとまち 2日間2名参加 （延べ4人参加）							確定
	実践報告1回 （法人向け）								11/21 17:15-18:15 青い鳥 実践報告会						確定
	実践報告1回 （地域向け）											2/14（土） 13:45-16:30 西文化会館 1回分			確定

自立支援協議会 強度行動障害支援部会			第1回 自立支援協議会 6月3日（火） 10:00～ 堺市役所				第2回 自立支援協議会 10月16日（木） 10:00～ 堺市役所		第3回 自立支援協議会 12月25日（木） 10:00～ 堺市役所			第4回 自立支援協議会 3月5日（木） 10:00～ 堺市役所		

評価項目

評価項目１

「標準的な支援状況表」

①アセスメント（障害特性）
②アセスメント（障害特性以外の行動観察）
③支援手順書
④個別支援計画
⑤受容的支援
⑥表出的支援
⑦記録
⑧チームアプローチ
⑨その他（事業所内連携）
⑩その他（事業所外連携）
※医療面

標準的な支援実施状況表　　事業所名：

		項目	1	2	3	4	5	6
①	A	**アセスメント（障害特性）**	活用していない	特定利用者の障害特性の把握をし、アセスメントシートに記載している	特定利用者の障害特性を整理・分析している。もしくは行動の背景として活用している。 例：氷山モデルを使って行動の背景を考えている等	普段の支援から障害特性を意識し、障害特性のアセスメントシートを3か月に１回は更新している	複数の利用者に①－１、①－2,①－3アセスメントが実施されている	①-1,①－２,①-3が事業所内で浸透し活用されている
②	A	**アセスメント（障害特性以外の行動観察）**	活用していない	特定利用者の行動の要因を把握をしている。 例）睡眠不足の次の日は不調。月経の前は不調など	特定利用者の行動の要因を把握をし、整理、分析をしている。	普段の支援から行動観察を意識し、アセスメントシートを3か月に１回は更新している	複数の利用者に②－１、②－2,②－3アセスメントが実施されている	②-1,②－２,②-3が事業所内で浸透し活用されている
③	P	**支援手順書**	活用していない	特定利用者の１つの場面で活用されている	特定利用者の２つ以上の場面で活用されている	活用と改定が定期的に実施されている	複数の利用者に支援手順書が活用されている	支援手順書を活用し事業所内で統一した支援が実施できている
④	P	**個別支援計画書**	活用していない	特定利用者の１つの場面で活用されている	特定利用者の２つ以上の場面で活用されている	活用と改定が定期的に実施されている	複数の利用者に活用されている	活用し事業所内で統一した支援が実施できている
⑤	D	**受容的支援**	活用していない	特定利用者に構造化の手法を持ち入れられ始めている	特定利用者に構造化のアイディアが活用されている	特定ご利用者の構造化が必要に応じて更新されている	複数の利用者に構造化が活用されている	構造化のアイディアが事業所内で浸透し活用されている
⑥	D	**表出的支援**	表出的支援が必要なご利用者に取り入れられていない	特定利用者に対して意思表出支援を開始している	特定利用者の意思表出の場面・幅がD-2より広がっている	特定利用者以外のケースでも表出的支援を開始している	特定利用者以外のケースでも意思表出の場面・幅がD-3より広がっている	表出的支援が必要な全ご利用者に取り入れている
⑦	C	**記録**	活用していない	運営指導時に必要な記録のみとっている	行動観察記録（スキャッタープロット等）が活用されている	目的に合わせた記録の活用がされている	複数の記録が活用されている	事業所内で記録の活用、分析が浸透している
⑧	働く環境	**チームアプローチ**	理念・基本的価値観の共有 職員間のコミュニケーション（会議、ランチ会等） 人材育成 職員のケア（ストレスマネジメント等） 上記項目で具体的な取り組みがない	理念・基本的価値観の共有 職員間のコミュニケーション（会議、ランチ会等） 人材育成 職員のケア（ストレスマネジメント等） 上記項目で１つ以上具体的な取り組みをしている	理念・基本的価値観の共有 職員間のコミュニケーション（会議、ランチ会等） 人材育成 職員のケア（ストレスマネジメント等） 上記項目で２つ以上具体的な取り組みをしている	理念・基本的価値観の共有 職員間のコミュニケーション（会議、ランチ会等） 人材育成 職員のケア（ストレスマネジメント等） 上記項目で３つ以上具体的な取り組みをしている	理念・基本的価値観の共有 職員間のコミュニケーション（会議、ランチ会等） 人材育成 職員のケア（ストレスマネジメント等） 上記項目で4つ以上で具体的な取り組みをしている	理念・基本的価値観の共有 職員間のコミュニケーション（会議、ランチ会等） 人材育成 職員のケア（ストレスマネジメント等） 上記項目のすべての項目もしくはそれら以上の取り組みを行っている
			具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み
⑨	その他	**【事業所内連携】 管理者との連携 サビ管、児発管との連携 現場職員との連携**	連携していない	連携をややしている	連携をしている	連携をよくしている		
⑨	その他	**【事業所外連携】 相談支援専門員との連携 地域・関係機関との連携 家族との連携**	連携していない	連携をややしている	連携をしている	連携をよくしている		
⑩	医療面	**・身体的外面的（皮膚や外科など） ・身体的内面的（内科、整形、耳鼻科、婦人科等） ・精神的（精神科）**	【自由記述】					

評価項目２

「職員アンケート」

①個別支援計画
②担当利用者の特性理解
③行動障がいや自閉症の理解
④特性に基づく環境調整等
⑤自己学習
⑥職員間のコミュニケーション
⑦法人の理念やビジョンについて
⑧支援を行う上での満足度

１～6で評価

令和６年度　堺市強度行動障害支援体制整備事業　職員アンケート

全職員用
（コアメンバーきむ）

令和　　６　年　　月　　日

勤続年数　　年

事業所名

提供サービス

内容	行動		※	程度
個別支援計画	１　立てている		１	個別支援計画を意識して支援したことがない。
			２	個別支援計画の達成を意識して、担当者が主に支援を行っている。
			３	個別支援計画の達成を担当者が意識して行っており、全職員（棟やユニットでも可）に周知している。
			４	個別支援計画の達成を担当者を含めた複数名が意識して実践している。
			５	個別支援計画の達成を全職員※（棟orユニットでも可）が意識して実践している。
			６	個別支援計画を全職員※（棟orユニットでも可）で検討・作成し、意識して実践している。
担当利用者の特性について ※特性＝得意なこと、好きなこと、苦手なこと、嫌いなこと等	１　理解していない		１	必要性がない。
			２	理解したいが理解するのが難しい。
	２　理解している		３	なんとなく日々の行動から特性を理解しているが、適切に理解できているかどうかわからない。
			４	日々の行動のアセスメントやデータ等の根拠に基づき理解している。
			５	日々の行動のアセスメントやデータ等の根拠に基づき理解し、支援を組み立てている。
			６	日々の行動のアセスメントやデータ等の根拠に基づき理解し、支援を組み立てチームで共有している。
行動障がいや、自閉症の理解	１　理解していない		１	必要性がない。
			２	理解したいが理解するのが難しい。
	２　理解している		３	研修等で学びなんとなく理解した。
			４	研修等で概ね理解している。実践にはもう少し時間がかかる。
			５	研修等で概ね理解し、利用者支援を実践している。
			６	研修等で概ね理解し、チーム全体で利用者支援を実践している。
特性に基づいた環境調整等	１　実施していない		１	必要性がない。
			２	環境調整の方法を知らない。
	２　実施している		３	なんとなく理解し、実践している。
			４	本人の特性に基づき環境調整を行っている。
			５	本人の特性に基づき環境調整を行っており、必要に応じ見直し、改善している。
			６	本人の特性に基づき環境調整を行い、必要に応じ見直し改善を行い、マニュアル等を作成している。
自己学習	１　していない		１	必要性がない。
			２	したいがする余裕や時間がない。
	２　している		３	職場から指名される研修に参加している。
			４	職場から指名される研修以外にも興味がある研修案内等があれば自ら希望し参加している。
			５	職場から指名される研修も含め、学んできた業務に必要な研修を他の職員に伝達している。
			６	研修（内部研修含む）で学んだことを、職場内などで講師となり研修を実施し伝達している。
職員間のコミュニケーション（相談等）	１　していない。		１	相談することがない。
			２	相談したいが、多忙等の理由で相談することが難しい。
	２　している		３	困ったことなどを仲の良い職員と相談し解決している。
			４	困ったことなどを、全職員※（棟、ユニット）で4週間に1回程度は会議等で相談できる環境がある。
			５	困ったことなどを、会議等で相談でき、さらにその都度チームに相談できる環境がある。
			６	困ったことなどを、会議等でその都度チームに相談できる環境があり、他事業所とも共有している。
法人の理念やビジョンについて	１　知らない		１	理念やビジョンがあるかどうかもしらない。
			２	理念やビジョンを教えてもらったが、覚えていない。
	２　知っている。		３	理念やビジョンがあるということを知っているけど、知っている程度。
			４	理念やビジョンを職員会議等で定期的に確認し知っている。
			５	理念やビジョンに基づいて、支援を実践している。意識して実践している。
			６	理念やビジョンについて、意識して実践し、誰にでも説明できる。
支援を行う上での満足度	１　負担に感じる		１	支援の負担感は大きく、かなり悩んで疲れている。
			２	支援の負担感は大きく、悩みも多いが、何とか頑張りたいと思っている。
	２　満足		３	支援の負担感は軽減してきており、前向きになってきている。
			４	支援が楽しく感じられるようになってきている。
			５	支援が楽しく感じている。もっと様々なことを学びたい。
			６	支援が楽しい。現在のチームで様々なことを学び、周囲に伝えていきたい。

※全職員ー宿直などの職員、休日職員等にも書面等でわかりやすく共有しているものも含む。

評価項目３

「利用者行動評価」

①表出コミュニケーション
②受容コミュニケーション
③動き
④不安定な行動
⑤自傷
⑥他害・破損
⑦不適切な行動
⑧大声・奇声
⑨突発的な行動
⑩異食
⑪過食・多飲水・反すう
⑫確認行動
⑬こだわり
⑭睡眠
⑮排泄
⑯その他の行動
０点～２点の32点満点

堺市強度行動障害支援体制整備事業　対象利用者行動評価

法人名　（　　）　事業所名　（　　）　対象ご利用者名　（　　）

有無 あれば○	行動	頻度による評価			行動の程度などの特記事項 （支援前の状況）	支援前評価 点数	支援 中間評価 点数	支援後評価 点数	支援前と支援後の差異（定量） 支援後の特記事項（定性）
		０点	１点	２点					
	【表出コミュニケーション】 本人独自の表現方法を用いた意思表示	独自の方法によらず意思表示できる	時々、独自の方法でないと意思表示できないことがある	常時独自の方法での意思表示 意思表示できない					
	【受容のコミュニケーション】 言語以外のコミュニケーション手段を用いた説明の理解	日常生活において言葉以外の独自の方法（ジェスチャー、絵カード等）を用いなくても説明の理解ができる	時々、独自の方法でないと説明の理解ができないことがある	常に言葉以外の方法でないと説明理解ができない。 言葉以外の方法を用いても説明の理解ができない					
	【動き】 多動または行動停止	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【不安定な行動】 パニックや不安定な行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【自傷】 自分の体を叩いたり傷つけたりすること	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【他害・破壊】 叩いたり蹴ったり、器物を壊したりなどの行為	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【不適切な行為】 他人に突然抱きついたり、断りもなく物を持ってくる行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【大声・奇声】 環境の変化により突発的に通常と違う声を出すこと	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【突発的行動】 突然走っていなくなるよいうな突発的な行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【異食】 食べれないものを食べること	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【過食・多飲水・反すう】 過食、多飲水、反すう等の食べること飲むことに関する行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【確認行動】 気になることなど、何度も同じ確認をする行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【こだわり】 物や人に対する固執、執着が激しい行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日　　回）					
	【睡眠】 睡眠がとれなくなったり、昼夜逆転などの睡眠に関すること	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日の睡眠時間）					
	【排泄に関して】 頻回にトイレに行くなど、排尿、排泄に関しての不適切な行動	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日の睡眠時間）					
	その他、本人や周囲が困っている行動がある 【行動のタイトル記入】	まれにある。または、月に1回程度	1週間に1回程度	毎日（1日の睡眠時間）					
			・支援前と支援後の総合的な変化 支援後「出来ることが増えた」「笑顔が増えた」など ・支援前、中間、支援後の合計点数			０	０	０	

参加法人の進捗状況

社会福祉法人　コスモス

令和7年度実施計画（社会福祉法人コスモス）

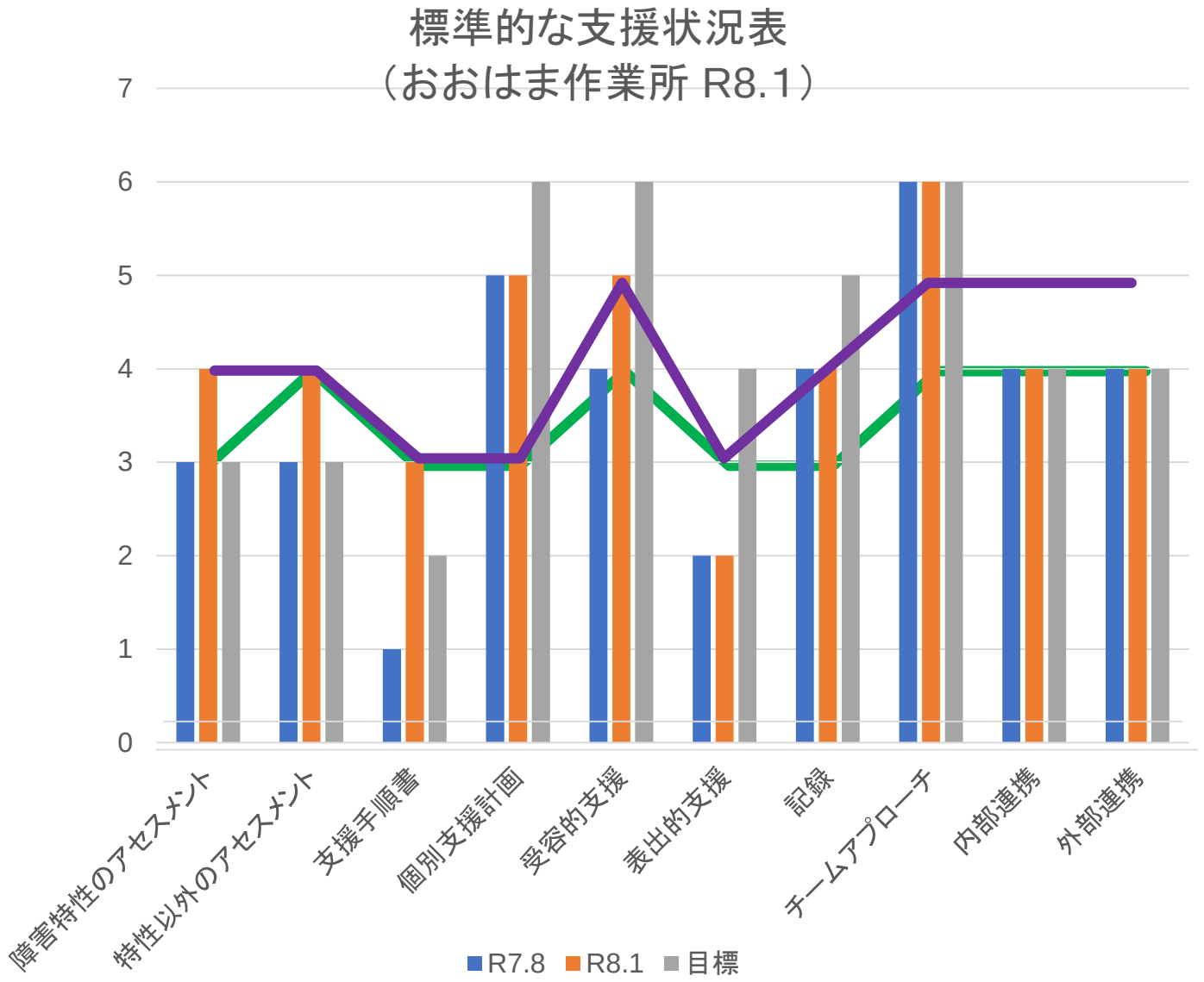
目標設定	
今年度目標	・利用者の直接支援が出来ている ・コアメンバーがアセスメントができるようになり、支援の組み立てができるようになる。 ・コアメンバーが支援の振り返りから組み立てができる（PDCAサイクルをまわす） ・チーム支援を展開できる
最終目標	・強度行動障がいのある方の支援おいて、堺市内の事業所の核となり、支援をリードしている。 ・強度行動障がいのある方を対象としたグループホームの支援を行うなど地域生活支援を展開している。

令和７年度予定プログラムと評価

プログラム	実施計画	令和7年8月評価	令和8年度1月評価
訪問コンサルテーション	・4/23、5/27（2回分）、7/29、8/28、10/2 10/30（2回分）、11/2 計9回 （担当：伊名岡、辻本）	・コロナによる延期はあったが、おおむね予定通り実施できている。訪問先・ケースは毎回変わる。コスモス以外に、はぴなにも１回訪問をし、幅広いケース視野を体験はできている。（伊名岡）	・予定通りに実施できている。 ・しののめとコスモスの第2ほくぶ障害者作業所よりケースがあがり、生活・日中でコンサルを受ける。そのほか３ケースほど、ローテーションで相談があがる。 ・アセスメント→ケース検討→実施というPDCAサイクルができてきていいる。 ・コンサル中もメンバー間での意見交換が活発になっている。
実地研修	4/14 表出コンサル1名 4/25 ASDコンサル1名 5/24,25とれとれ研修2×2名 9/8 表出コンサル2名 9/19 ASDコンサル2名 計10名	・事業２年目のためコンサルテーションを俯瞰して体験をしていただいている。自らのケースでないため客観的に物事をとらえ、学ぶ機会を作ることで積み上げてきた枠を大切にしつつ”枠”を広げる機会となっている。（伊名岡）	・コンサルを俯瞰して体験していただき、客観的な視点や支援のアイデアなどに繋げる機会となっている。
実践報告会（法人内）	・12/11（木）18:00～20:00		・74名と多くのスタッフが参加された。 ・実践を通して、ご利用者のアセスメント、特性の理解など大切にするべきことを共有できた。
実践報告会（市域向け）	・2月14日（土） 13:45～16:30　西文化会館		

標準的な支援状況表（コスモス様）

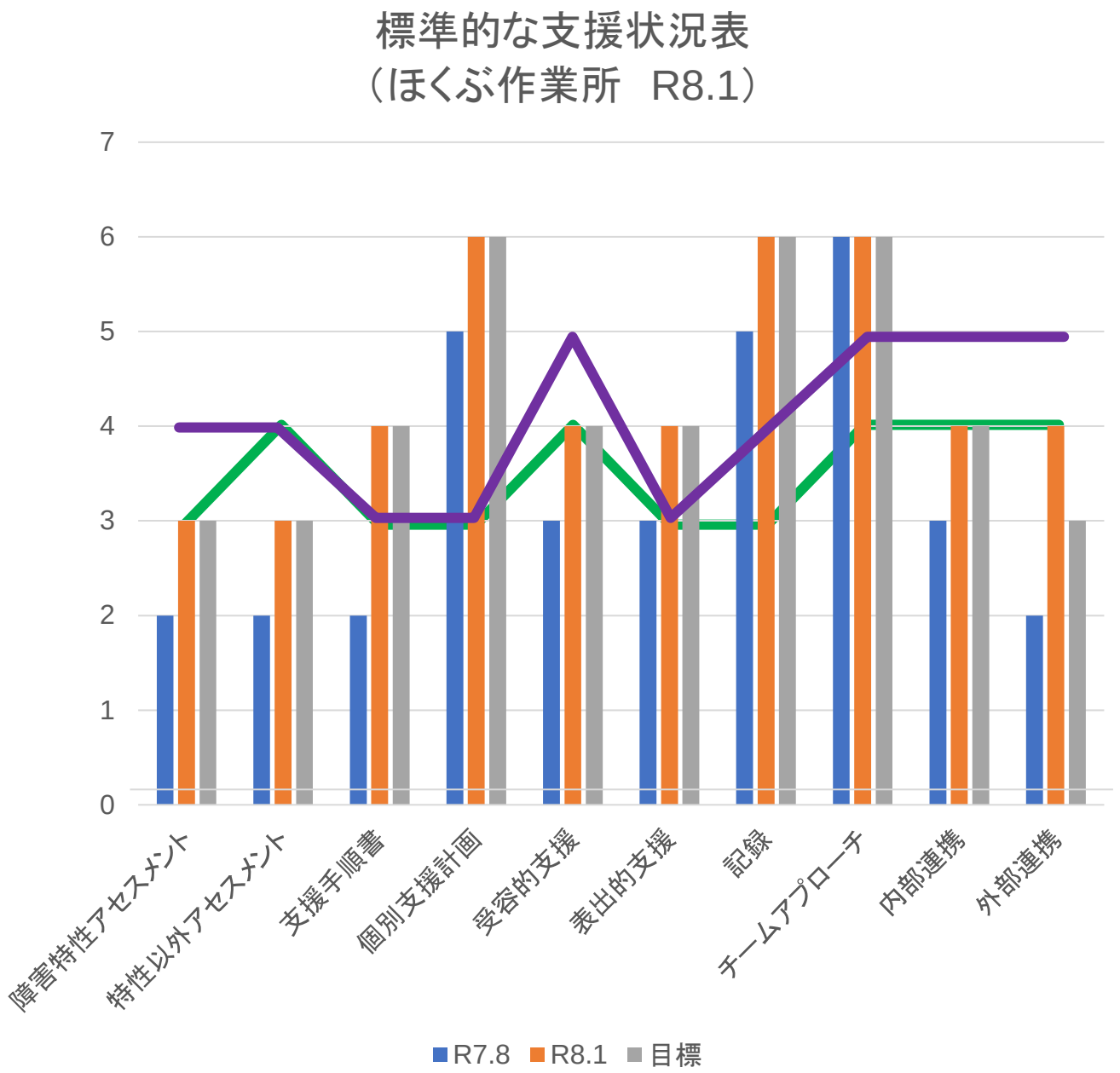
標準的な支援状況表（おおはま障害者作業所）							
	開始時点	R7.8評価			R8.1評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	3	3	3	3	4	4	3
アセスメント（特性以外）	3	3	4	3	4	4	3
支援手順書	1	1	3	2	3	3	2
個別支援計画書	5	5	3	6	5	3	6
受容的支援	4	4	4	6	5	5	6
表出的支援	2	2	3	4	2	3	4
記録	4	4	3	5	4	4	5
チームアプローチ	6	6	4	6	6	5	6
内部連携	4	4	4	4	4	5	4
外部連携	4	4	4	4	4	5	4
平均値	3.6	3.6	3.5	4.3	4.1	4.1	4.3



標準的な支援状況表（コスモス様）

標準的な支援状況表（ほくぶ障害者作業所）

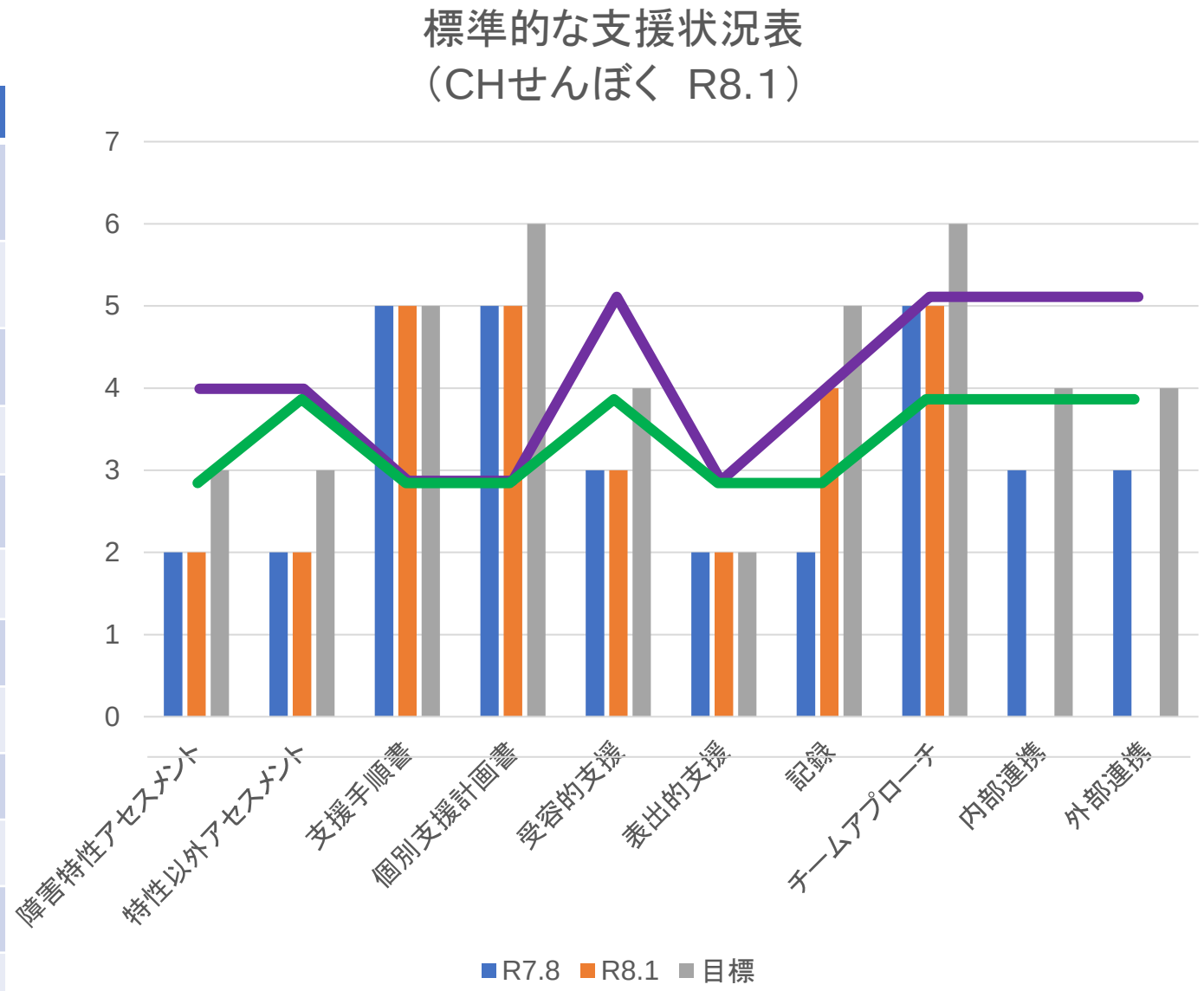
	開始時点	R7.8評価			R8.1評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	2	2	3	3	3	4	3
アセスメント（特性以外）	2	2	4	3	3	4	3
支援手順書	2	2	3	4	4	3	4
個別支援計画書	5	5	3	6	6	3	6
受容的支援	3	3	4	4	4	5	4
表出的支援	4	3	3	4	4	3	4
記録	4	5	3	6	6	4	6
チームアプローチ	5	6	4	6	6	5	6
内部連携	3	3	4	4	4	5	4
外部連携	2	2	4	3	4	5	3
平均値	3.2	3.4	3.5	4.3	4.4	4.1	4.3



標準的な支援状況表（コスモス様）

標準的な支援状況表（CHせんぼく）

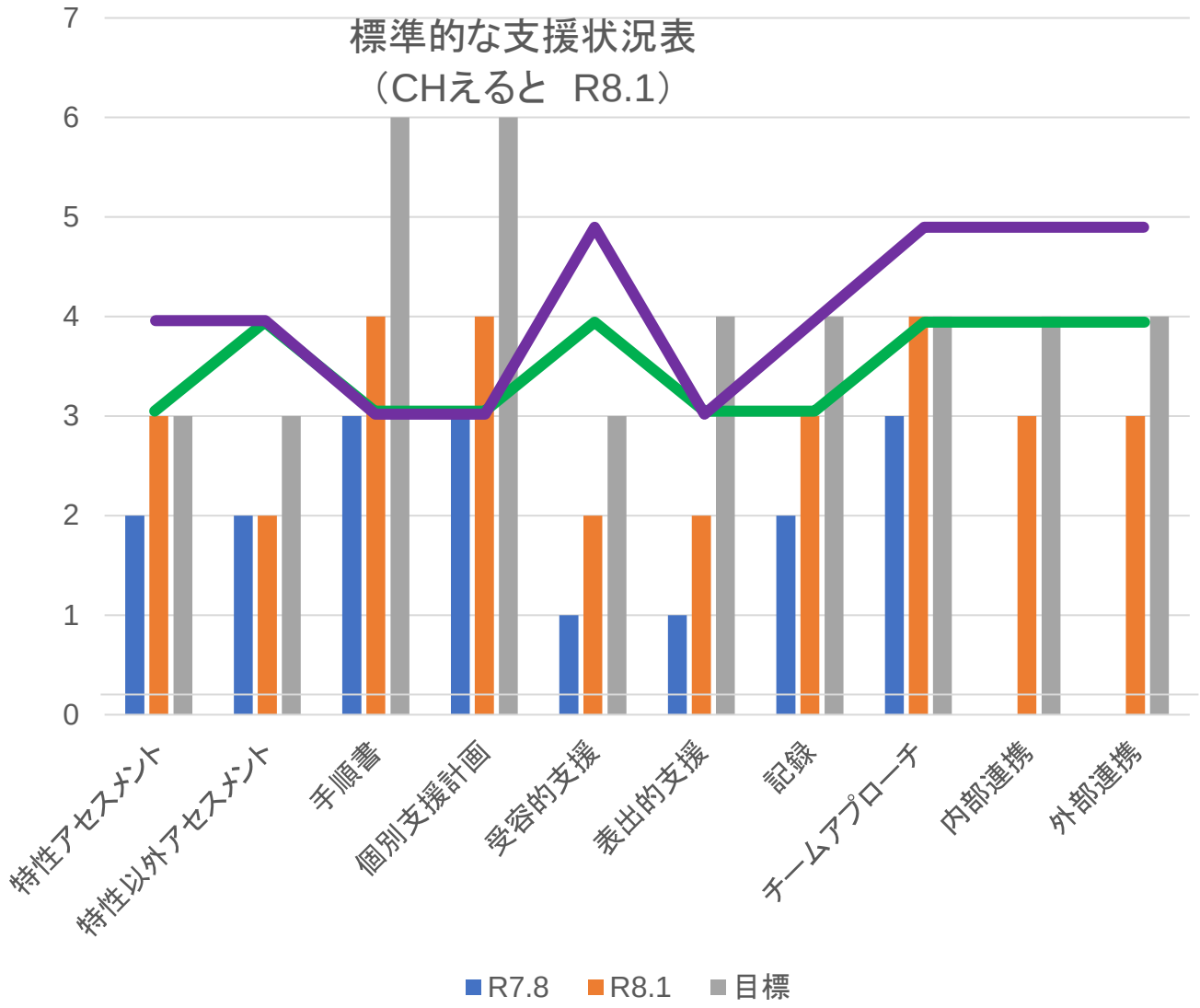
	開始時点	R7.8評価			R8.1評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	2	2	3	3	2	4	3
アセスメント（特性以外）	2	2	4	3	2	4	3
支援手順書	4	5	3	5	5	3	5
個別支援計画書	4	5	3	6	5	3	6
受容的支援	3	3	4	4	3	5	4
表出的支援	1	2	3	2	2	3	2
記録	5	2	3	5	4	4	5
チームアプローチ	4	5	4	6	5	5	6
内部連携	3	3	4	4		5	4
外部連携	3	3	4	4		5	4
平均値	3.1	3.2	3.5	4.2	3.5	4.1	4.2



標準的な支援状況表（コスモス様）

標準的な支援状況表（CHえると）

	開始時点	R7.8評価			R8.1評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	2	2	3	3	3	4	3
アセスメント（特性以外）	2	2	4	3	2	4	3
支援手順書	3	3	3	6	4	3	6
個別支援計画書	3	3	3	6	4	3	6
受容的支援	1	1	4	3	2	5	3
表出的支援	1	1	3	4	2	3	4
記録	2	2	3	4	3	4	4
チームアプローチ	3	3	4	4	4	5	4
内部連携			4	4	3	5	4
外部連携			4	4	3	5	4
平均値	2.1	2.0	3.5	3.8	3.0	4.1	4.1



職員アンケート

職員アンケート
（R7.9コスモス法人全体　398名 ）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	3.0	3.2	3.2	3.2
担当利用者の特性理解	3.6	3.9	3.9	4.0
行動障害自閉症理解	3.8	3.9	4.0	4.1
特性に基いた環境調整等	3.7	3.2	3.9	3.9
自己学習	3.0	3.9	3.2	3.1
職員間コミュニケーション	3.7	3.9	3.9	3.6
法人の理念・ビジョン	3.2	3.3	3.4	3.3
支援を行ううえでの満足度	3.1	3.2	3.6	3.5
平均値	3.5	3.6	3.6	3.6

職員アンケート
（R7.9コアメンバー 5名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	3.0	3	3.6	3.0
担当利用者の特性理解	4.2	5	4.2	4.2
行動障害自閉症理解	4.4	5	5.0	4.8
特性に基いた環境調整等	4.4	4	4.6	4.2
自己学習	4.0	3	4.2	4.8
職員間コミュニケーション	3.8	4	4.8	4.6
法人の理念・ビジョン	4.0	4	4.6	4.6
支援を行ううえでの満足度	3.2	4	4.0	5.2
平均値	3.8	4	4.4	4.4

利用者行動評価

利用者評価　（せんぼくF様）

項目	R6.10	R7.8	R8.1	備考
表出コミュニケーション	2	2	2	職員を連れて行くなどして、意思を伝えようとする。
受容コミュニケーション	1	1	1	実物を見てもらうなどしても説明が難しい時がある。
多動・行動停止	2	2	2	物の位置などが気になり、ホームの中を移動している。
不安定な行動				こだわりを完全に制止される場面はない
自傷	0	2	2	8月末からの、つねるなどの行動が1月にも続いている、
不適切な行動	2	2	2	トイレに他の利用者を押し込むことが、ほぼ毎日ある。
突発的な行動	1	1	1	自販機など外に出た時にある行動
異食				銭湯で排水溝のごみを口にしようとした。銭湯に行かないようにしている。
確認行動	2	2	2	物の位置を確認（靴を並べなおすなどしている）
こだわり	2	2	2	特定の人物に対して執着している
排泄	2	2	1	車内、部屋での排尿がある。
他者を動かす	2	2	2	ホームの床材を剥がして口に入れる（飲みこもうとはしていない様子）
合計	16	18	17	

利用者評価　（ほくぶ障害者作業所　H様）

項目	R6.10	R7.8	R8.1	備考（R7.8評価）
表出コミュニケーション	2	2	2	首振りで意思を伝える。「待つ・休憩」は本人独自のサイン。（特に変化ないが、本人なりに考え折り合いをつける時は表情が考えるポーズをしている）
受容コミュニケーション	1	1	1	簡単な単語はある程度理解。（仕事、トイレ、ご飯等）写真カード興味を示さないこと多いが、稀に写真で伝わる。（特に変わりなし）
多動・行動停止	2	2	2	部屋の中を歩き回る。気持ちの切り替えがしにくい時は行動停止。（気持ちの切り替えが難しい時が減少し柔軟性あり）
不安定な行動	2	1	1	特定の職員から離れられず探し回る。意にそぐわないと怒って自傷あり。（頻度は減少傾向にある）
自傷	1	1	1	思い通りにならない時は自分の頭やふともも、腕を殴る自傷がある。（頻度は減少傾向にある）
他害・破壊	2	2	2	物を強く叩きつけて時には壊してしまう。(食器やカバン等)自分の思い通りにならない時や折り合いをつける時。
不適切な行動	2	2	2	職員が離れないよう服や腕を引っ張る。職員から離れられる時間が多くなっている。
大声・奇声	2	2	2	甲高い声を出す事が多い。（特に変化はない）
突発的行動	1	2	2	走り出すことはあるが、職員への執着が弱い時間が増えているため、それに伴い減少傾向にある。
異食	1	0	0	散歩時、草や葉っぱを口に入れる。落ちた食べ物を食べてしまう。（ほとんどない。外に行くと葉っぱを口に入れる）
過食・反すう	1	0	0	人の食べ物をとることはあるが、減少傾向にある。
確認行動	2	2	2	行動を行なう前に必ず職員に確認を求める。答えが違うと、納得するまで繰り返し確認。変化なし
こだわり	2	2	2	物の配置が気になる。反復行動（儀式的）毎日ある。特定の職員の執着が非常に強く離れない。その職員がいないと動けない。常にある。
気持ちの切替え	2	2	2	いつもと予定や流れがかわると混乱し、納得できないことがある。
合計	23	21	21	点数の変化はないが、以前よりも気持ちの切り替えがスムーズになったり、こだわりの頻度や強さが改善傾向にある。

利用者評価（CHえると　H氏）

項目	R8.1	R8.8	備考
表出的コミュニケーション	2		言葉で表現、不快になると近くにある壁や扉を叩く、対応した支援者を叩く。
受容的コミュニケーション	1		絵やイラストで理解できる
不安定な行動	2		不快な音や行動が制止されると近くにある壁や扉を叩く。対応した支援者を叩く。
自傷	2		
他害・破壊	2		不快な音や行動が制止されると近くにある壁や扉を叩く。対応した支援者を叩く。
不適切な行動	1		キーパー室に預かっている衣服を取り出すためにカギを使って開け気温や気候に合わない服を着用する。
大声・奇声	2		不快な音や行動が制止されると大声を出す
突発的な行動	1		キーパー室に預かっている衣服を取り出すためにカギを使って入る
過食・多飲水・反すう	1		喉が渇いたり、お腹がすくと冷蔵庫を開けにいく
確認行動	1		場面や気持ちの切り替え時に、反覆行動が見られる
こだわり	1		注意されたり、物を壊すと特定支援者に執着し、「ごめんなさい」と謝りに行く。
音に敏感で破壊につながる	2		壁や扉、物の破壊があるため、静かに暮らさないといけない。
合計	18		10月にコンサルを受けて、本人にとって不快な音が気にならないようにイヤホンを使って環境配慮している。イヤホン装着に応じてくれる時とそうでない時がある。自分の要求が出せるように、生活場面で必要なイラストカードの作成をおこなっていく予定。

社会福祉法人　こころの窓

令和7年度実施計画（社会福祉法人こころの窓）

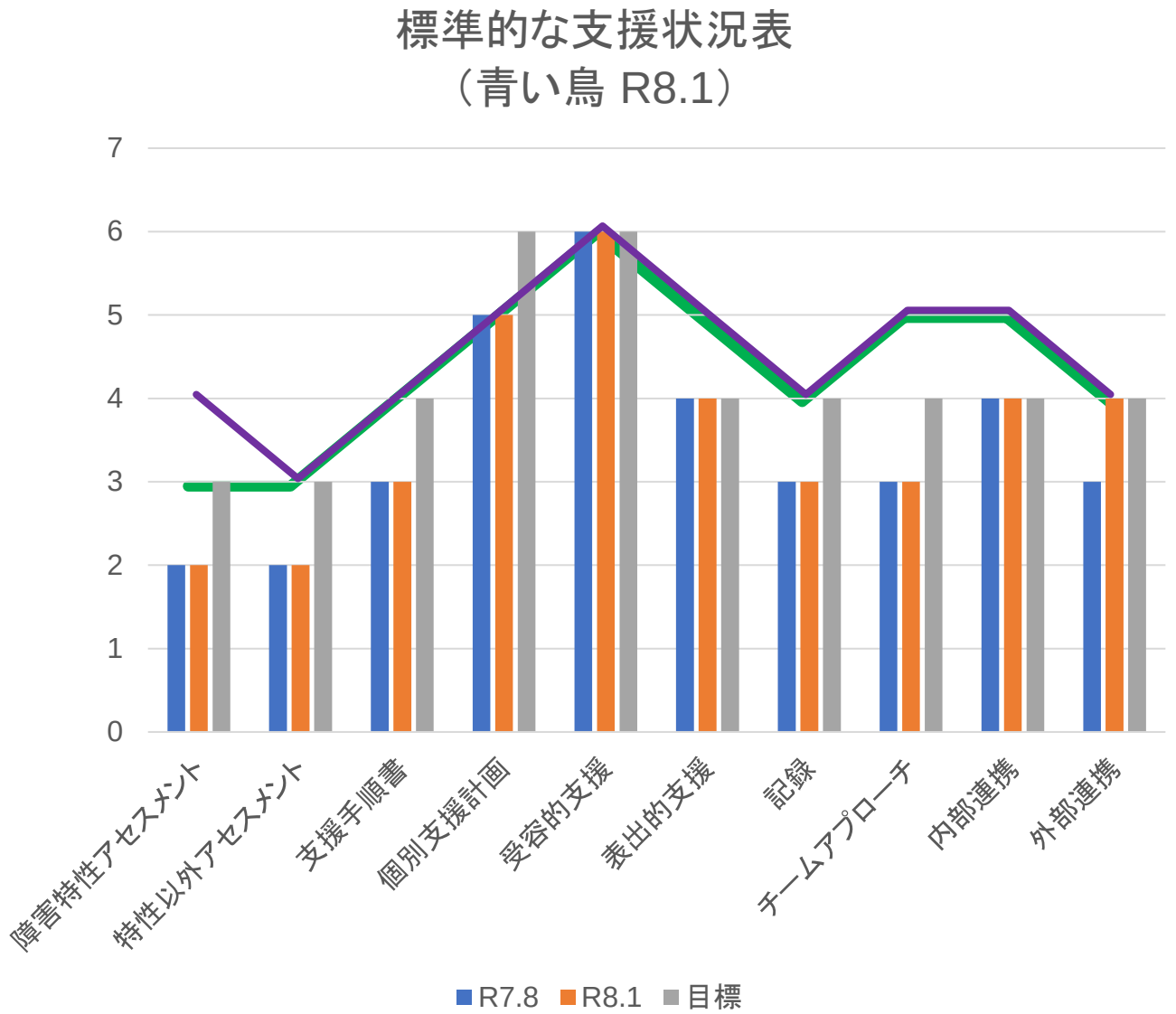
目標設定	
今年度目標	・利用者の直接支援が出来ている ・コアメンバーがアセスメントができるようになり、支援の組み立てができるようになる。 ・コアメンバーが支援の振り返りから組み立てができる（PDCAサイクルをまわす） ・チーム支援を展開できる
最終目標	・強度行動障がいのある方の支援おいて、堺市内の事業所の核となり、支援をリードしている。 ・強度行動障がいのある方を対象としたグループホームの支援を行うなど地域生活支援を展開している。

令和７年度予定プログラムと評価

プログラム	実施計画	令和7年8月評価	令和8年１月評価
訪問コンサルテーション	・5/21、6/16、8/18、9/29（2回分）、 11/17（2回分）、12/19、2/16　　計9回 （担当：伊名岡、辻本）	・予定通り遂行。訪問先で継続してケースを進めている。話を伺いスーパービジョンをするだけでなく、支援ツールを一緒に作る時間を設けて、徐々に発想から”形”にし、実践までつながりが出てきている。	・予定通り実施。 ・コアメンバーが中心となり、チーム支援が難しくなる場面でもスタッフへの聞き取りなどを行い、上手にまとめている。 ・コンサルの中で支援ツールを一緒につくるが、事業所でも支援ツールを作るなど展開することができてきている。 ・ヴァンサンクつつじのケースも相談であがっている。
実地研修	・7/14(2名)、7/22(2名)、7/25(2名)、 10/25、26(各2名計4名) 計10名	・事業２年目のためコンサルテーションを俯瞰して体験をしていただいている。自らのケースでないため客観的に物事をとらえ、学ぶ機会を作ることで積み上げてきた枠を大切にしつつ”枠”を広げる機会となっている。	・とれとれ研修に参加。短時間でPDCAを回し、再構造化していく過程を学ばれた。 ・その後の事例検討会でも、ご利用者の特性に合わせたアイデアを出している。
実践報告会（法人内）	・11/21（金）17:15-18:15		・30名以上が参加。 ・発表ケースについて、今後の展開の意見交換もされていた。
実践報告会（市域向け）	・2月14日（土） 13:45～16:30　西文化会館		

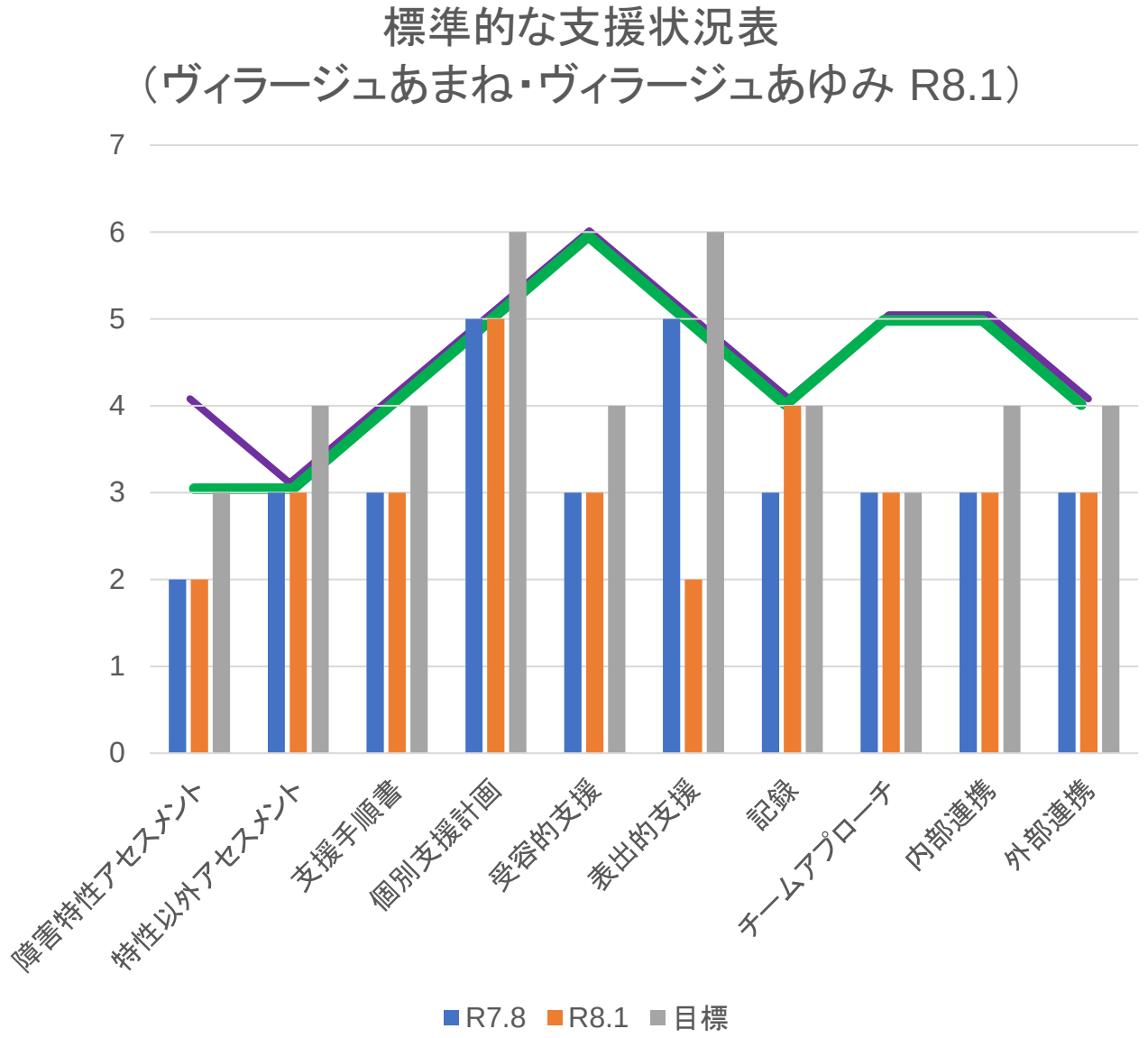
標準的な支援状況表（こころの窓様）

標準的な支援状況表　（青い鳥）							
	開始時点	R7.8評価			R8.1評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	2	2	3	3	2	4	3
アセスメント（特性以外）	2	2	3	3	2	3	3
支援手順書	3	3	4	4	3	4	4
個別支援計画書	5	5	5	6	5	5	6
受容的支援	6	6	6	6	6	6	6
表出的支援	6	4	5	4	4	5	4
記録	3	3	4	4	3	4	4
チームアプローチ	3	3	5	4	3	5	4
内部連携	4	4	5	4	4	5	4
外部連携	3	3	4	4	4	4	4
平均値	3.7	3.5	4.4	4.2	3.6	4.5	4.2



標準的な支援状況表（こころの窓様）

標準的な支援状況表 （ヴィラージュあまね、ヴィラージュあゆみ）							
	開始時点	R7.8評価			R8.1評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	2	2	3	3	2	4	3
アセスメント（特性以外）	2	3	3	4	3	3	4
支援手順書	3	3	4	4	3	4	4
個別支援計画書	5	5	5	6	5	5	6
受容的支援	6	3	6	4	3	6	4
表出的支援	6	5	5	6	2	5	6
記録	3	3	4	4	4	4	4
チームアプローチ	3	3	5	3	3	5	3
内部連携	4	3	5	4	3	5	4
外部連携	3	3	4	4	3	4	4
平均値	3.7	3.3	4.4	4.1	3.1	4.5	4.1



職員アンケート

職員アンケート （青い鳥 生活介護・就労B　9名 ）				
	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	3.7		3.9	4.0
担当利用者の特性理解	3.9		2.0	4.4
行動障害自閉症理解	4.3		4.6	3.9
特性に基いた環境調整等	4.2		3.9	4.1
自己学習	2.9		2.7	3.0
職員間コミュニケーション	3.9		3.3	3.6
法人の理念・ビジョン	3.5		3.1	3.3
支援を行ううえでの満足度	3.4		2.9	3.1
平均値	3.7		3.4	3.7

コアメンバーアンケート （青い鳥 生活介護・就労B 計4名）				
	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	4.6	3.4	3.8	4.0
担当利用者の特性理解	3.6	3.0	4.8	4.8
行動障害自閉症理解	4.2	4.2	4.6	5.3
特性に基いた環境調整等	3.8	4.0	4.8	5.0
自己学習	3.2	3.0	2.8	3.0
職員間コミュニケーション		3.7	4.6	4.5
法人の理念・ビジョン	4.0	3.4	3.4	4.5
支援を行ううえでの満足度	3.4	3.0	3.0	4.0
平均値	3.8	3.5	4.0	4.4

利用者評価（青い鳥 もずホーム　M.M氏）

項目	R6.10	R7.8	R8.1	備考
表出コミュニケーション	2	2	2	発語なし。本人発信の意思表示なし（変化なし）
受容コミュニケーション	1	1	1	ワークシステムを使って、次の行動を促すようにしている。
多動・行動停止	2	2	2	自身で動かれることなく常に座って過ごされる。（散歩の機会は増えた）
不安定な行動	1	2	2	日中作業所への登所拒否があり、更衣や送迎車への乗車拒否あり
確認行動	0	0	2	キッチンや支援室を頻回に覗く行為があった。
不適切な行動	0	0	2	特定支援員の顔をじっとみたり、近付こうとしたりされることがあった
大声・奇声	2	2	0	声を出すことはなくなった。
過食・多飲水・反すう	2	2	2	調整はしているが提供されれば食べ続ける（変化なし）
突発的な行動	0	0	2	入浴時間ではない時間帯に急にお風呂に行こうとすることがあった。
こだわり	0	0	2	お風呂に対してこだわりが増えている。シャワーを浴びようとする行為が増えた。
睡眠	1	1	0	体調不良時を除いて最近は安定している。
排泄	2	2	2	朝の送迎車など特定の場面でも何度かトイレに行かれている。
夜間に電気、ドアノブ等	2	2	0	新しいカード導入で落ち着いてきている（送迎車と日中活動の写真で通所を提示している）
合計	15	16	19	

利用者評価（青い鳥　ヴィラージュあゆみS.I氏）

項目	R6.10	R7.8	R8.1	備考
表出コミュニケーション	1	1	1	カード使用頻度や伝える機会が増えている。特定の行動のみのため、カードの種類、提示場所を増やすなどを実施していきたい。
受容コミュニケーション	1	1	1	作業スケジュールと1日の流れのスケジュールを作成。戸惑いがあったが慣れてきている。
多動・行動停止	2	1	1	急な立ち止まり、座り込みあり。拒否の手段。（活動停止の頻度は減少→変化なし）
不安定な行動	2	1	1	イライラが多くなっている。作業中に突然の声や自傷されることがみられた。
自傷	2	1	2	自分の頭を叩く、頭突き、その場に座り込みをされることがある。
他害・破壊	0	0	1	イライラ時、作業道具机を叩く行動があった
大声・奇声	1	1	1	（変化なし）
突発的行動	1	1	0	特に見られなかった
過食・多飲水	1	1	1	自宅では制限できず自由に飲食（変化なし）
確認行動	2	1	1	男子トイレのこだわり（職員が見ていない間に男性トイレを見に行く。常に意識している）
こだわり	2	2	2	服やプリキュアの本などのこだわり（常時ある。変化なし）
睡眠	2	2	2	19時～2時に睡眠。2時以降覚醒（1日7時間の睡眠。変化なし）
排泄	2	2	2	夜間ベッドに排尿、自宅はトイレに行かず座ったまま排尿（変化なし）
睡眠リズム	2	2	2	睡眠リズムがずれる（変化なし）
合計	21	17	18	睡眠時間にばらつきあり。睡眠不足や環境変化で自傷の回数増えた。新しい取り組みは職員が付き添い、最後まで取り組もうとする姿勢が見られた。

社会福祉法人　障友会

令和7年度実施計画（社会福祉法人障友会）

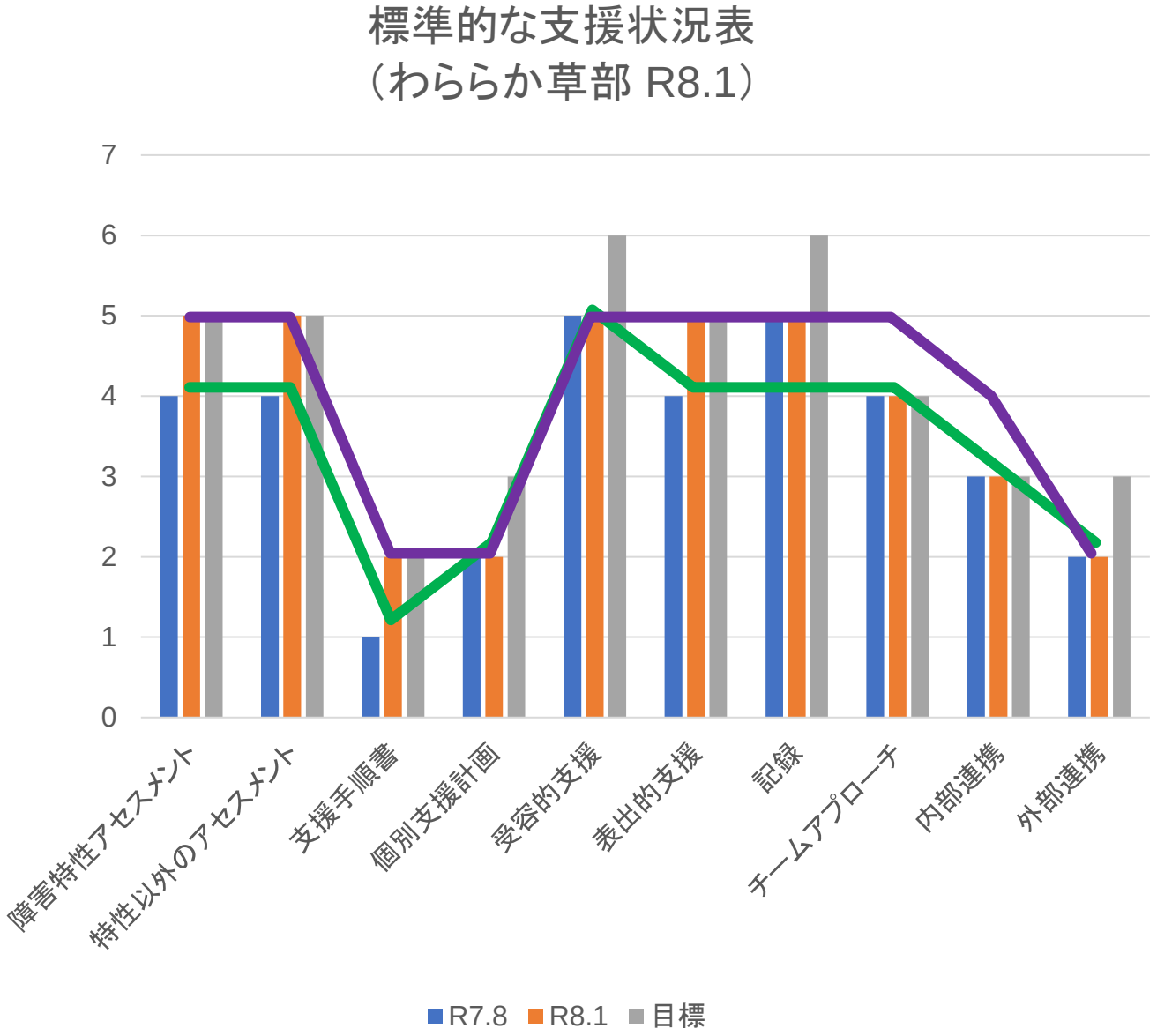
目標設定	
今年度目標	・ご利用者の直接支援が出来ている ・コアメンバーがアセスメントができるようになり、支援の組み立てができるようになる。 ・コアメンバーが支援の振り返りから組み立てができる（PDCAサイクルをまわす） ・チーム支援を展開できる
最終目標	・強度行動障がいのある方の支援おいて、堺市内の事業所の核となり、支援をリードしている。 ・強度行動障がいのある方を対象としたグループホームの支援を行うなど地域生活支援を展開している。

令和７年度予定プログラムと評価

プログラム	実施計画	令和7年8月評価	令和8年１月期評価
訪問コンサルテーション	・5/30、6/20、7/18、8/29、10/17、 11/21、12/19、1/16、 2/20 計9回予定 （担当：小林）	・コアメンバーは、課題行動の設定に於いて、特性理解を深め、ご本人目線で考えられるようになった。ご本人の時間的・空間的な見通しの持ちにくさ（中枢統合・の困難さ）からスケジュールボードの作成に取り組んだ。チームで、記録⇒振り返り⇒支援の修正というサイクルに取り掛かかり始める。	・予定とおり実施することができた。8月までは支援の視点、考え方について理解を深めたが、それ以降は具体的な支援のアイデアについても相談があり、ＰＤＣＡを回していくことができた。コアメンバーは若手であるが、チームの中で先輩職員等にも働きかけ、協力を得ることができた。ひとつの支援アイデアに固執することなく、記録→振り返り→支援の修正ということができてきており、コンサルテーションでの職員の意見をもとに支援ツールや教材の見直し等も行うことができた。
実地研修	・9/19：2名、 10/25、26：各2名計4名 11/10：2名、11/28：1名 12/24:1名 計10名の予定	・9月19日に2名が実地研修を体験する。実地研修で体験したことを事業所に持ち帰り、チーム内で実践の共有を行うことができた。これを契機に他事業所に見学に行ったり、他事業所と意見交換をしたりするようになる。	・構造化や表出のコミュニケーション等について新しい支援アイデアを得ることができた。チームアプローチの方法や考え方についても学習することができた。コンサルテーションのモデル事例の支援を考えるにあたって、応用できることがあった。
実践報告会（法人内）	・12/19（金）17:30-19:00		・盛況裡に終わり、発表者は達成感と自信を得た様子であった。支援による対象者の変化だけでなく、発表者たちの変化・成長についても触れられており、行政の方をはじめ、皆様から好評を得ることができた。
実践報告会（市域向け）	・2月14日（土） 13:45～16:30　西文化会館		

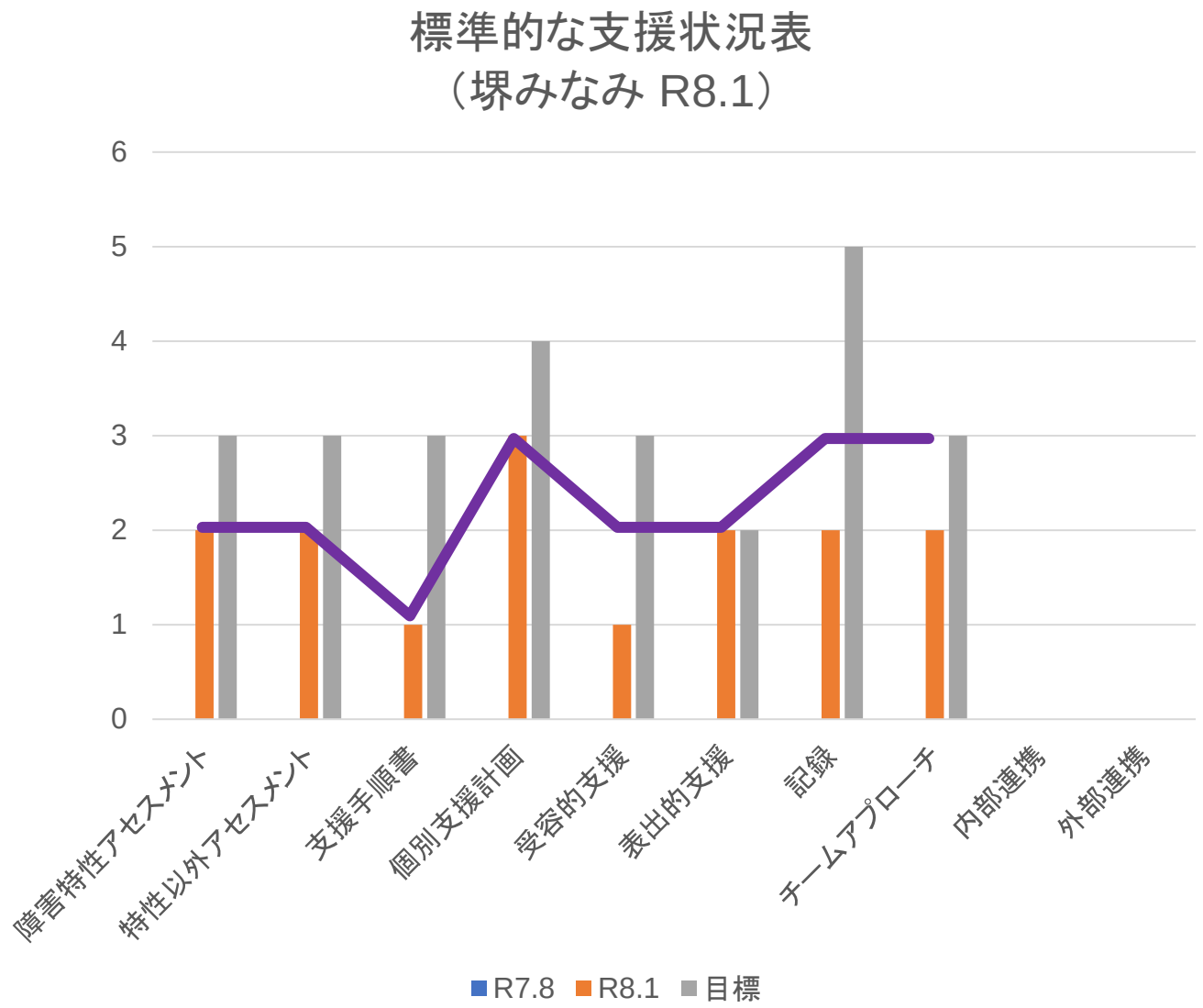
標準的な支援状況表（障友会 様）

標準的な支援状況表（わららか草部）							
	開始時点	R7.8評価			R8.1評価		
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）	2	4	4	5	5	5	5
アセスメント（特性以外）	3	4	4	5	5	5	5
支援手順書	3	1	1	2	2	2	2
個別支援計画書	2	2	2	3	2	2	3
受容的支援	3.5	5	5	6	5	5	6
表出的支援	2	4	4	5	5	5	5
記録	3	5	4	6	5	5	6
チームアプローチ	2	4	4	4	4	5	4
内部連携	3	3	3	3	3	4	3
外部連携	2	2	2	3	2	2	3
平均値	2.6	3.4	3.3	4.2	3.8	4.0	4.2



標準的な支援状況表（障友会 様）

標準的な支援状況表（堺みなみ）								
	開始時点	R8.1評価			R8.8評価			
		自己評価	コンサル評価	目標	自己評価	コンサル評価	目標
アセスメント（障害特性）		2	2	3			
アセスメント（特性以外）		2	2	3			
支援手順書		1	1	3			
個別支援計画書		3	3	4			
受容的支援		1	2	3			
表出的支援		2	2	2			
記録		2	3	5			
チームアプローチ		2	3	3			
内部連携							
外部連携							
平均値		1.9	2.3	3.3			



職員アンケート

職員アンケート（わららか草部 23名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	3.1	3.5	2.9	3.8
担当利用者の特性理解	4.1	4.1	4.0	4.3
行動障害自閉症理解	4.1	4.4	4.4	4.7
特性に基いた環境調整等	3.9	4.1	4.3	4.3
自己学習	3.3	3.5	3.1	3.3
職員間コミュニケーション	3.4	4.3	4.1	4.2
法人の理念・ビジョン	3.5	3.7	4.0	3.6
支援を行ううえでの満足度	3.3	4.0	3.5	3.6
平均値	3.6	3.9	3.8	4.0

コアメンバーアンケート（わららか草部4名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	3.4	3.8	4.3	4.5
担当利用者の特性理解	3.8	4.3	5.8	6.0
行動障害自閉症理解	4.0	4.5	4.2	5.8
特性に基いた環境調整等	4.6	4.3	4.8	4.8
自己学習	3.0	3.3	4.0	4.3
職員間コミュニケーション	4.0	3.8	4.0	5.3
法人の理念・ビジョン	3.0	3.5	3.8	3.8
支援を行ううえでの満足度	4.2	4.0	4.3	4.5
平均値	3.8	3.9	4.4	4.9

職員アンケート（堺みなみ12名）

	R7.9	R8.1
個別支援計画	3.8	3.3
担当利用者の特性理解	3.6	3.7
行動障害自閉症理解	4.3	4.2
特性に基いた環境調整等	3.7	3.8
自己学習	3.1	3.0
職員間コミュニケーション	4.5	3.8
法人の理念・ビジョン	3.6	3.4
支援を行ううえでの満足度	3.7	3.8
平均値	3.8	3.6

コアメンバーアンケート（堺みなみ2名）

	R7.9	R8.1
個別支援計画	2.5	3.5
担当利用者の特性理解	3.5	3.5
行動障害自閉症理解	4.0	4.5
特性に基いた環境調整等	4.0	4.0
自己学習	3.0	3.5
職員間コミュニケーション	2.5	3.0
法人の理念・ビジョン	3.0	3.0
支援を行ううえでの満足度	5.0	4.5
平均値	3.6	3.7

利用者評価（わららか草部　T氏）

項目	R6.10	R7.8	R8.1	備考
表出コミュニケーション	0	1	1	言葉でコミュニケーションが取れる（伝えることが難しいこともある）
受容コミュニケーション	1	1	1	複雑なことは紙に書くなど視覚的支援が必要
多動・行動停止	2	2	2	以前より落ち着いて過ごせている。月経前は落ち着きがない。
不安定な行動	2	1	2	特定の人への過敏な関りが週1回程度に減少している。
自傷	2	0	0	施設での自傷は滅多にない。
不適切な行動	2	2	2	水色ナット箱を気にされる様子だったが、こだわられるようになる。
大声・奇声	2	1	1	外出時、スケジュール通りにならないと高い声を出されるようになった。
突発的行動	2	2	2	気になる人や物を見つけると走り出され、休み確認をされることがある。
確認行動	2	2	2	職員の休みや1日のスケジュールを提示し、確認は減っているが、毎日確認される。
こだわり	2	2	2	行動（確認、トイレ）によって行う人が決っており変更が難しい。
睡眠	2	1	1	以前と比べると日中に眠られることは減少。月経前は眠られること多い。
挑発行動	2	1	2	男性利用者の排泄を覗きに行くことがある。特定利用者のエプロンの紐をほどく。
合計	21	16	18	

利用者評価（わららか草部　Y氏）

項目	R6.10	R7.8	R8.1	備考
表出コミュニケーション	1	1	1	職員の手を引く・1語文。ストレス時手を噛み表現。（変化なし）
受容コミュニケーション	1	1	1	簡単な単語の意味は理解 意味理解は弱い（変化なし）
多動・行動停止	2	2	2	飛び跳ねる。急に走る。気になるところへ行く（1日30回→5回程度）
不安定な行動	2	2	2	ストレス時に飛び跳ねる。手を噛む、耳をふさぐ（1日10回→5回程度）
自傷	2	2	2	手を噛む自傷（程度が強い噛む行動は週1回程度→1日5回程度）
他害・破壊	1	1	1	支援者の手を自身の額に強く押し付ける（回数は減った）
不適切な行動	2	2	2	興味物を触る。カラーコップを重ねる（1日5回程度）
大声・奇声	2	2	2	ストレス時大きな声 （1日5回→3回程度）
突発的行動	2	2	2	トイレに行く際、作業ボックスを重ねる際走る（1日10回→3回以下）
過食・反すう	2	2	2	食事時、口に入れた物を出して障る。錠剤を噛砕く（食事時）
こだわり	2	2	2	作業ボックス、カラーコップのこだわり。（1日10回→5回程度）
行動の切替え	2	1	2	行動の切換えの際に、職員の手助けが必要。
合計	21	20	21	

利用者評価（堺みなみ　T氏）

項目	R7.8	R8.1	備考
受容コミュニケーション	1	1	字・言葉　難しい言葉組み合わせが多くなると×
多動・行動停止	2	2	手持ち無沙汰になると備品の整理や資材の補充をする。予定変更の対応が難しい
不安定な行動	2	2	自分で決めた予定通りに行かない時、切り替え中に電話、放送がなった時。
自傷	2	2	足を床にたたきつける かさぶたをめくる
他害・破壊	2	2	作業の資材を破る
不適切な行動	2	2	資材の補充
大声・奇声	2	2	いやな時や場面の切替え時に叫ぶ。職員の名前や苦手な利用者さんの名前を叫ぶ （苦手な方が休まれているので少ない）
突発的な行動	1	1	車に乗り込む際、門を開けに行こうとする。 外出時トイレがあると走っていく。
確認行動	2	2	朝の会の始まりを確認
こだわり	2	1	切替え時、指定職員が指定の位置にいないと切替え出来ない。 →顔写真で切換えができるようになった。
睡眠	2	2	家でもショートステイでもあまり眠れていない。日中立ったまま寝ることがある。
排泄に関して	2	2	行動の切換え時にトイレに行く。 トイレ内はひとりでないと出来ない。
合計	22	21	

個人参加法人

ライフサポート協会はぴな（コスモス様に参加）

職員アンケート（生活介護11名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	4.4		3.9	4.3
担当利用者の特性理解	4.4		4.5	4.8
行動障害自閉症理解	5.0		5.3	5.4
特性に基いた環境調整等	4.6		4.3	4.8
自己学習	3.2		3.5	3.4
職員間コミュニケーション	4.1		4.3	4.5
法人の理念・ビジョン	4.6		4.1	4.2
支援を行ううえでの満足度	4.3		3.6	3.8
平均値	4.3		4.2	4.4

コアメンバーアンケート（生活介護１名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	4		4	4
担当利用者の特性理解	5		5	5
行動障害自閉症理解	5		5	5
特性に基いた環境調整等	5		6	6
自己学習	6		6	6
職員間コミュニケーション	4		4	4
法人の理念・ビジョン	5		6	6
支援を行ううえでの満足度	6		6	6
平均値	5		5.3	5.3

自立支援協会　ケアサポートしののめ（コスモス様に参加）

※R7.9

職員アンケート
（行動援護 30名） ※R7.9は9名

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	3.6	3.9	3.3	3.8
担当利用者の特性理解	4.1	4.7	4.6	4.6
行動障害自閉症理解	4.7	5.1	4.8	4.8
特性に基いた環境調整等	4.4	4.5	4.3	4.5
自己学習	2.8	3.2	2.8	3.0
職員間コミュニケーション	4.1	4.4	4.0	4.3
法人の理念・ビジョン	4.6	4.6	4.6	4.4
支援を行ううえでの満足度	3.4	2.9	3.6	3.5
平均値	4.0	4.2	4.0	4.1

コアメンバーアンケート
（行動援護 1 名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	4	4	4	3
担当利用者の特性理解	2	3	3	3
行動障害自閉症理解	5	5	5	4
特性に基いた環境調整等		4	3	4
自己学習	4	4	5	4
職員間コミュニケーション	5	5	4	5
法人の理念・ビジョン	5	5	4	5
支援を行ううえでの満足度	5	4	5	4
平均値	4.3	4.3	4.1	4.0

ヴァンサンクつつじ（こころの窓様に参加）

職員アンケート
（GH、生活介護、就B 35名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	2.6		2.8	3.5
担当利用者の特性理解	3.4		3.4	4.5
行動障害自閉症理解	3.9		3.7	4.4
特性に基いた環境調整等	3.4		3.3	4.4
自己学習	3.2		3.1	3.3
職員間コミュニケーション	3.6		4.0	4.3
法人の理念・ビジョン	2.5		2.6	3.2
支援を行ううえでの満足度	3.7		3.2	3.5
平均値	3.3		3.3	3.9

コアメンバーアンケート
（GH１名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	3		4	4
担当利用者の特性理解	5		6	6
行動障害自閉症理解	5		6	6
特性に基いた環境調整等	6		6	6
自己学習	6		5	5
職員間コミュニケーション	5		6	6
法人の理念・ビジョン	5		6	5
支援を行ううえでの満足度	6		6	6
平均値	5.1		5.6	5.5

グループホームドーナツ（障友会様に参加）

職員アンケート
（グループホーム 8名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	3.0		3.3	3.4
担当利用者の特性理解	3.7		4.0	3.8
行動障害自閉症理解	3.5		4.2	3.9
特性に基いた環境調整等	3.8		4.3	4.3
自己学習	3.7		3.7	3.5
職員間コミュニケーション	3.5		3.7	3.5
法人の理念・ビジョン	3.0		3.0	3.0
支援を行ううえでの満足度	2.7		2.8	3.0
平均値	3.4		3.6	3.5

コアメンバーアンケート
（グループホーム １名）

	R6.10	R7.2	R7.9	R8.1
個別支援計画	4		4	4
担当利用者の特性理解	5		5	5
行動障害自閉症理解	4		5	5
特性に基いた環境調整等	5		5	5
自己学習	4		4	5
職員間コミュニケーション	4		5	4
法人の理念・ビジョン	5		5	5
支援を行ううえでの満足度	3		3	3
平均値	4.3		4.5	4.5

資料２

強度行動障害のある方への支援を考える実践報告会
（堺市強度行動障害支援体制整備事業）概要

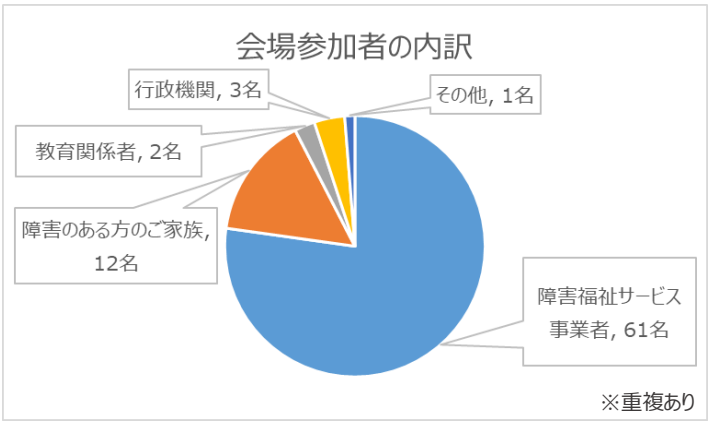
1　開催概要

日時：2026 年 2 月 14 日（土）13:45～16:30

会場：堺市立西文化会館ウェスティ　7 階セミナールーム

運営：社会福祉法人北摂杉の子会

参加者数：会場 77 名（参画法人を含む）※後日アーカイブ配信への申込者数は約 80 名



2　目的

本市では、強度行動障害のある方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、専門的な支援を実施できる人材の育成や市域のネットワーク構築を進めるために、強度行動障害支援体制整備事業を実施しており、今回の実践報告会では、事業説明や基調講演、事業へ参画している法人による実践発表を通じて、支援のヒントや学びを共有し、地域の支援力向上につなげることを目的として開催した。

3　報告内容

（1）事業説明

堺市より事業概要や実施の経過等について説明

（2）基調講演

厚生労働省　社会・援護局　障害保健福祉部　障害福祉課　地域生活・発達障害者支援室　山根氏より

強度行動障害支援の国の施策や動向について説明

（3）事例発表

参画法人（社会福祉法人コスモス、社会福祉法人こころの窓、社会福祉法人障友会）より実践報告

（4）意見交換

山根氏とコアメンバーとの意見交換

4　今後に向けて

・報告会を通じて得られた知見を活用しながら、今後の地域全体での支援体制の構築の推進に向けて協議を続ける。

・実践報告会は来年度も開催予定。

資料3

令和8年度　部会・強度行動障害支援体制整備事業　実施スケジュール（予定）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
強度行動障害支援部会	部会開催			第1回部会（事業進捗管理・体制整備）		第2回部会（事業進捗管理・体制整備）		第3回部会（事業報告・評価、進捗管理・体制整備）					第4回部会（事業報告・評価、次年度協議）
	事業評価・報告					市協議会へ報告		市への事業評価報告				市協議会へ報告	市への事業評価報告
強度行動障害支援体制整備事業	コンサルテーション	コンサルテーション①～⑥	2か月に1回程度										
	実地研修				実地研修①（事例検討会）		実地研修②（コンサル同行 or 支援ツール作成研修）		実地研修③（コンサル同行 or 支援ツール作成研修）		実地研修④（コンサル同行 or 支援ツール作成研修）		
	実践報告会									実践報告会①（法人内）		実践報告会②（市域向け）	
	参画法人等	目標設定 研修等開始		部会への参加		部会への参加 アンケート結果等作成・報告(専門的法人へ)		部会への参加			アンケート結果等作成・報告(専門的法人へ)		部会への参加 評価通知の受領
	専門的法人	事業開始 参画法人の目標設定への助言		部会への参加、資料提供・事業報告		部会への参加、資料提供・事業報告 効果測定(職員アンケート等結果集約・分析・参画法人へのフィードバック)		部会への参加、資料提供・事業報告			効果測定(職員アンケート等結果集約・分析・参画法人へのフィードバック)		部会への参加、資料提供・事業報告

※事業のスケジュールは各参画法人の可能な日程に応じて、随時、調整しながら実施

資料4

強度行動障害支援体制整備に向けて

令和8年3月6日

令和7年度　第4回　強度行動障害支援部会

強度行動障害支援体制整備に向けて

令和7年度第2回・第3回強度行動障害支援部会のご意見

	ご意見（要旨）
事業に関すること	・対象者へのアプローチによって変化があるという手ごたえを職員が実感していることが良い ・支援のベースとなる本人特性の理解が支援の常識となりつつある ・4年目で他の法人にコンサルテーションに行ける人がいるかもしれないが、3年では難しい。事業受託法人（北摂杉の子会）では15年は要した ・参画法人同士でコンサルテーションの練習などを通じて成長できれば良い ・具体的な支援方法だけでなく、ゴールは利用者が暮らしやすくなることであり、支援者側の変化がこの1年半で着実に見られている。実践を通じて見えてきた課題も多く、時間をかけるのが良いと思う ・事業は折り返し地点だが、単純な半分ではなく、後半に向けては前半で培ってきたものが活かされる可能性がある ・コンサルタントが答えを提示せずに考えを引き出してくれている。今後それを担う側になれるかが課題
体制整備に関すること	・事業継続できる体制を取って定着を図ると次の段階へ進めると思う。児童分野との連携も期待される ・事業の流れ自体は前向きであるが、家族や当事者に届くまでに時間がかかるため、隙間を埋める工夫が必要 ・事業の延長というよりSVの支援体制の枠組みや、各事業所の支援力を引き上げる草の根の部分として研修やワークショップなどにフォーカスするのも良いかと思う ・国の動向と堺市独自の取組があるが、現場のニーズに応じた支援を検討する必要がある ・事業参画法人へのSVの支援体制や、地域と共にどう取り組むのか、児童分野との接続についても考える必要がある。教育・児童分野の課題や取組など、検討材料があれば良いと思う

強度行動障害支援体制整備に向けて

令和7年度第2回・第3回強度行動障害支援部会のご意見より

ご意見（要旨）	
各機関の取組等	・療育手帳の判定業務以外にも、強度行動障害のある方等へ判定結果を活かした助言を行っている ・必要に応じて判定情報を活かせるのであれば、アセスメントをもう一度するような形で助言に繋げている 行動障害支援の枠という訳ではなく、判定の情報のフィードバックの枠で行っている。また、基幹相談支援センターの強度行動障害プロジェクトチームで個別ケース検討への助言を行っている。 ・発達障害者支援センターでは、現時点で行動障害のある方を専門とするスタッフはいないが、連携の中で果たす役割があればと思っている。 ・基幹相談支援センターでは、幅広い障害のある方の相談に応えるため、専門性が求められる障害に関すること等でプロジェクトチーム体制を組んでいる。強度行動障害プロジェクトチームは区をまたいで会議を年6回開催。他市や市内事業所の取組の見学、個別事例を挙げて、社会資源の利用の仕方などを話し合うなど、基幹相談支援センターとして何ができるか検討してきた ・基幹相談支援センターのみで行う限界もあり、更生相談所にも協力してもらい助言をもらっている

堺市の強み

- 参画法人が事業の取組を通じて、支援者側の変化がこの1年半で着実に見られている
- 判定機関からの専門的な知見を生かしたフィードバック・助言体制がある
- 障害者基幹相談支援センターには、「強度行動障害プロジェクトチーム」があり、事例を通じた全市的な視点で課題共有・検討してきた実績がある。また、他機関との協力体制がある
- 各機関の間で顔の見える関係性があり、複数機関が連携し、協力し合える関係性がある
- 強度行動障害のある方を受け入れるグループホーム等へ補助金を支給する市独自の仕組みがある

強度行動障害支援体制の整備に向けて

R8年度　堺市強度行動障害支援体制整備事業　実施スケジュール（予定）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R8	コンサルテーション①～⑥	2か月に1回程度										
				実地研修①（事例検討会）		実地研修②（コンサル同行or支援ツール作成研修）		実地研修③（コンサル同行or支援ツール作成研修）		実地研修④（コンサル同行or支援ツール作成研修）		
									実践報告会（法人内）		実践報告会（市域向け）	
			部会（進捗管理・体制整備）		部会（進捗管理・体制整備）		部会（進捗管理・体制整備）				部会（報告・評価・次年度協議）	

	令和9年度以降の事業展開に向けた整理
目的	• 強度行動障害のある人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることを実現していくことが最大の目的 • そのために、強度行動障害のある人への専門的な支援が実施できる人材と他法人への助言等ができる人材の確保・育成 • 予防的な観点もふまえた支援体制・ネットワーク・社会資源の構築を整備
必要な取組等	◆専門的な支援を実施できる人材について ・R6年度から、参画法人が事業を通じて積み上げてきた学びを活かし、法人内外での取組の継続 ・R7年度に各参画法人1名が中核的人材養成研修の受講終了（1名はサブトレーナー）。中核的人材が法人内の中核的な役割を担う ◆他法人への助言等ができる人材について ・R9年度以降、すぐに参画法人が他法人へコンサルテーション等を実施することは難しいとの意見がある ・参画法人が相互にコンサルテーションを実施し、コンサルテーションの手法や助言方法等の学びの継続 ・市内法人等に強度行動障害支援の重要性やその支援方法等を広げるため、参画法人を中心に協働（共同）して強度行動障害支援の相談・助言、研修等の実施の検討 ◆堺市の強み（顔の見える関係性等）を活かした連携体制について ・専門機関等が参画法人と連携し、役割を担い合う

強度行動障害支援体制の整備に向けて

強度行動障害のある人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために

今後の堺市強度行動障害支援体制イメージ図（案）

国や府の仕組・事業等の活用

・広域的支援人材による集中的支援・重度障害者支援加算等
・大阪府が実施する事業等（教育と福祉の連携事業他）

障害福祉サービス・障害児支援事業所

中核的支援人材
強度動障害支援者養成研修修了者
専門的法人（事業参画法人）

相談支援事業所

家族
本人

SV支援体制の必要性

医療機関
教育機関
地域福祉課

協働

発達障害者支援センター
障害者更生相談所
総合相談情報センター
障害者基幹相談支援センター

連動

連携
強度行動障害支援部会
障害児の相談支援部会

意見 報告
本会

地域の実情を踏まえた、強度行動障害の支援の充実・強化に向けた協議の場

※事務局（障害施策推進課）

堺市障害者自立支援協議会

○ 強度行動障害のある人への専門的な支援が実施できる人材および障害福祉に関する他法人への助言等ができる人材の確保・育成
○ 予防的な観点もふまえた支援体制・ネットワーク・社会資源の構築整備

『地域の支援力の向上とネットワークの構築』

部会の方向性とスケジュール

課題を踏まえた議論の方向性

■参画法人が他法人へのコンサルテーションを3年で実現することは難しいとの意見がある。今後、市域における強度行動障害支援を広げ、市域の支援体制の構築を推進するためには、中核的な役割を担う事業参画法人へのスーパーバイズ（SV）機能が必要であり、そのための仕組みを検討する
■専門機関の関わりや顔の見える関係性等堺市の強みを活かした強度行動障害支援体制を整理する
■事業の評価、Ｒ９年度以降の事業展開および現場のニーズに応じた取組を検討する

	R7年度 第3回部会	R7年度 第4回部会	R8年度 第1回部会	R8年度 第2回部会	R8年度 第3回以降
スケジュール	R7.12.25 開催	R8.３.5 開催 第2回本会	R8.6月頃 開催	R8.8月頃 開催 第1回本会	後日調整
内容	1.事業の経過報告 2.教育と福祉の連携事業の共有 3.体制整備について（堺市における人材・機関の役割整理）	【第1部】 1.事業の実施報告 2.事業の方向性の検討 【第2部】 1.事業評価 (評価委員のみ)	1.R8年度事業実施予定の共有 2.R9年度以降の事業展開の協議 3.堺市における体制整備の整理	令和8年度第2回部会を目途に、R9年度事業展開方針を決定 ↓ 提言へ	

令和７年度 堺市障害者自立支援協議会
第４回 強度行動障害支援部会 議事概要

日時　　令和８年３月５日（木） 10：00～11：10
場所　　堺市役所本庁地下１階 大会議室[東側]
出席者　林（施設部会）、植田（関西大学）、吉川（アプリコット堺）、陳（コスモス）、木村（こころの窓）、藤原（障友会）、平野・小林（北摂杉の子会）、石橋（北区基幹）、河瀬（地域福祉課）、三枝・川﨑（障害者更生相談所）、森（障害支援課）
欠席者　伊名岡（北摂杉の子会）
傍聴　　２名

１．強度行動障害支援体制整備事業

（1）令和７年度下半期の経過報告　資料 1-1　資料 1-2

（専門的法人）令和７年度のスケジュールは２月末で終了。標準的な支援状況表のグラフの見方について、棒グラフは自己評価で、青色がR7年８月の評価、オレンジ色がR8年１月の評価、グレーが今年度の目標。折れ線グラフはコンサルタントの評価で、緑色がR7年８月の評価、紫色がR8年１月の評価。コンサルタントの評価は、事業所ごとには判断しづらいので、法人ごとで同じ評価としている。

〈法人参加〉

コスモス

半年～1年でケースを変えて実施している。
標準的な支援状況表は、概ね上昇傾向で、特にコンサルタントの評価の点数が上がっている。
職員アンケートは、コアメンバーとそれ以外の職員で分けて調査している。法人全体で398名に調査された。コアメンバーの満足度があがっている点が注目される。
利用者評価に関しては、同じ点数であっても備考の記載内容から効果が確認できる項目もある。今回から評価開始となったケースは今後経過を見ていく。

こころの窓

利用者をアセスメントし支援ツールまでを作る、とれとれ研修を実施した。
標準的な支援状況表では、表出的支援が大幅に減少している点については、一人の方の点数が反映された結果である。
職員アンケートは、全体的に平均値が上昇している。
利用者評価では、２人とも点数は増えているが、新たな行動が出てきている一方で、無くなっている行動もある。

障友会

初めは悩まれていたが、皆で取り組めるようになってきた。
標準的な支援状況表では、自己評価とコンサルタントの評価も順調に上昇している。

職員アンケートでは、コアメンバーの点数が上がっており、特に「行動障がいや、自閉症の理解」の項目が上昇している。
利用者評価は、点数だけを見ると増えている部分もあるが、点数には表れない部分に変化が見られる。
〈個人参加〉
はぴな　コアメンバー以外の職員の評価が上がっている。
ケアサポートしののめ　およそ横ばいで推移している。
ヴァンサンクつつじ　コアメンバーの評価が高く、コアメンバー以外の職員の平均値も上がっている。
グループホームドーナツ　およそ横ばいで推移している。
全体的に、支援者目線から利用者目線が進んできた。支援結果にも表れてきており、支援の専門性や満足度も上がってきた。

・　（専門的法人）自身は障友会のコンサルタントを担当している。コアメンバーが若手で、利用者の特性理解を中心に意識してきた中で、評価項目の点数にも表れてきた。非常に熱心に取り組んでおり、初めはパンク気味だと言っていたが、これから実践にも繋がると思う。

（2）市域向け実践報告会の実施報告　資料 2

（事務局）資料 2 に沿って説明。基調講演では、厚生労働省の発達障害施策調整官の山根氏より、国で実施している支援施策などを幅広く説明。事例発表では、各参画法人より、本人理解を深めるアセスメントの工夫や、チーム支援の取組、環境調整等によりどのような変化があったかなどについて報告。意見交換では、山根調整官よりコアメンバーへ、ガッツポーズが出た瞬間と、胸に刺さった言葉について質問があり、「利用者目線を意識でき支援に繋がったこと」「本人の特性からくるものという気付きを教えてくれた」などの答えがあった。

〈参画法人より報告等〉

・　（委員）報告会において他法人の取組を聴いて自身の励みになった。利用者や職員の変化について、あるケースではコンサルテーション後、特定のこだわりが軽減した一方で、新たなこだわりが表出した。これに対し、コンサルテーションで得た学びを活かし、本人の背景を考えた仮説を設定することで、効果的な支援に繋げることができた。あわせて現場職員との対話の重要性を再確認した。アセスメントに基づいてチームとして支援を進められると良い。
・　（委員）コアメンバーが自ら考える力が育っており、支援における視点をどこに置くか、利用者を中心に据える姿勢に立ち返ることができるようになってきている。コアメンバー以外の職員とも話し合えるようになり、PDCA サイクルを回すことができるようになってきた。改めて、行動障害のある方への支援で何が大切かを他の支援者に伝えていこう、大事な基本を振り返っていこうと思っている。課題として、自分たちの支援は一定形になってきているものの、人に伝える術をまだ持てておらず、もっと学ばないといけない。実践報告会も人に伝える練習になった。
・　（委員）コンサルテーションについては、経験の浅い職員も加わって始めた。支援において何が大切かを学び、ようやくスタートラインに立ったと思う。利用者の行動面に着目していた職員が、その要因として自分たちの声掛けが影響している可能性に気づけたのは良かった。「根拠のある支援」が合言葉のようになっている。一方で、正解を求め、コンサルタントに頷いて欲しいという気持ちから、言葉に詰まってしまうこともまだ見られる。実地研修については、現場で見て学ぶことができ、専門的法人の方が根拠を説明しながら支援をしてくれている。研修後はモチベーションが上がり、少しすると下がることの繰り返しではあるが、アセスメント力も上がっているのではないかと思う。

実践報告会の影響も大きく、自身の言葉で伝える練習となったほか、様々な意見をもらえるとともに、他の職員の理解促進にもつながった。残り 1 年、他事業所に広げていく意識をするように進めている。

〈意見交換・質問等〉

- （委員）アーカイブで実践報告会を視聴した。行けなかったことが残念で、支援が進んでいると感じた。課題が出た際に、職員自身で考え、応用できるようになってきているのが良い傾向だと思う。法人内でも報告会を開催されたとのことだが、法人内での広がりについて変化があれば教えてほしい。

→（委員）法人内で関心が向けられており、コアメンバーに対して自事業所の利用者を見て欲しいという声は出るだろう。先述のケースのように、現場で焦りが出てきた際に出番かと思う。今回の取組も自信はなかったが、コンサルタントにも報告し、本人にとって分かりやすい形でできれば良いのではないかと意見をもらい、達成感につながった。

→（委員）コンサルタントに相談している以外のケースにも、応用することができている。

→（委員）対象の利用者がいるグループには広がっているが、法人全体にはこれからの段階。

２.次年度のスケジュールについて 資料 3

（事務局）資料 3 に沿って説明。事業の進捗管理、体制整備を引き続き行う。令和 9 年度予算要求が必要となることも想定して、部会は早めの時期に予定。アンケート等の評価は 10 月、3 月の部会で実施予定。

３.体制整備に向けて 資料 4

（事務局）これまでの議論整理と、今後に向けた方向性について、資料 4 に沿って説明。
R8 年度は実地研修として、コンサルテーションの技術や助言方法等を学ぶため、コンサルテーションへの同行を実施するほか、3 法人による事例検討会や法人内での支援ツールの作成研修も予定している。
今後の堺市の強度行動障害支援体制イメージ図は、いただいた意見をもとに前回の部会から修正した。目的や国の指針を追記し、本人を中心に据えた。
令和 8 年度第 2 回部会を目途に、事業展開方針を固める予定。

〈意見交換・質問等〉

- （専門的法人）令和 8 年度のスケジュールは 4～5 月から開始予定。実地研修のうち 1 回は、参画法人合同で、1 ケースずつ出し合って事例検討会をしようと考えている。「コンサルテーションとは」という講義も入れたい。その後、とれとれ研修も開催したい。また、他法人のコンサルテーションに同行し、場合によっては自分たちからも質問するような機会を作る。法人間の交流にもつながる。将来的には、参画法人でペアを組み、コンサルテーションへ行くことも良いかと考えている。
- （専門的法人）コンサルタントとして、コアメンバーと話をしてどこまで進めていけるか調整していきたい。
- （委員）報告会を聞いて、このような場が大切なのだと感じた。利用者目線は基本中の基本で浸透していくだろうと考える中で、コアメンバーのモチベーションを保ち、現場職員の支援がこれで良いのかを客観的に担保してもらえるような体制が必要。資料 4 の P4 について、質的向上の仕組みとして、他法人同士での事例検討や勉強会など、法人間で共有できる仕組みがあれば良いかと思う。「質的担保の継続」などの文言が入れば良い。
- （部会長）取組後のチーム体制の構築が重要だと思う。

・　（委員）報告会が非常に良かった。報告会後にコアメンバーが交流していたのが良かったので、来年度に合同で事例検討を開催予定との話を聴き、良い考えだと思った。期待も大きいところではあるが、2 年目を終えた課題として、特性理解が進んでいるにも関わらず手順書に落とし込めていない点が気になった。

→（専門的法人）特性を理解して、強みに変換し、支援にどう活かすか。PDCA サイクルを回せるまでに時間がかかる。ご指摘の点については、次年度で取り組みたい。法人を超えたチームワークを作りたい。

・　（部会長）資料のイメージ図について、重度障害のある方の暮らしをどう支えるかという点で、地域生活支援部会とも関連のある話なので、地域生活支援拠点等についても記載してはどうか。

４.その他

令和８年度第１回強度行動障害支援部会　開催日程
令和８年５月～6 月頃